

北海道医歌人会詠草



雪の苦小牧

北広島 古屋雅三知

予期もせぬ雪に見舞われ 朝早く人々出でて路地の雪踏む
裏道は人の歩める影もなし 僅かに轍二筋残る
昨日までアスファルト見えし街道に 朝日の下に光る新雪
苦小牧 雪の少なき街なればブルドーザーの除雪届かず
この家は老いたる夫婦住めるらむ 門の前にも除雪跡なし

夏きざす

函館 水関 清

遠方より来たる朋あり酌み交わす 酒の魔法や 時短絡す
連休の旅の思ひ出満載し 尾灯で埋まる 上り高速
朝陽射す小屋を巡りて 親鶏の 温みを残す卵拾へり
露天風呂 赤兎抱かれ加わりぬ いとけなき顔皆温まる
早苗饗の夜は更けゆきて 話果て 何時しか蛙の声加わりぬ

独り言

旭川 稲積 文子

嘘言えず諍となる不器用さ 独りつぶやき独りうなづく
外見を気にする余裕などはなく 足腰をいたわる氷の路面
荒れ狂う地吹雪の中を忠実に 愛車は吾家に向かつて走る
母親似それだけで情が湧く娘 風邪なんか早く飛んでっしまえ
猫なれど呼べば返事をしてくれる 心願つは人のみならず

残雪

江別 三宅 浩次

積み上げた排雪山のてっぺんにブルドーザーが小さく乗って
札幌は残雪ゼロとはいうけれどまだメートルを越すところあり
残雪に隠されていた過去たちを陽が晒し出す容赦をせずに
塀の隅に一塊の残雪よ冬はすでに過ぎ去りしものを
雪が降りその雪が融け来る年もまた雪が降りまた融けて行く

妻の健康

札幌 古屋 統

酒に弱くなりたる我れぞ晚酌の一升ビンが二週間保つ
年取るには淋しきものかわが葬り葬儀委員長予定者のきみが先立つ
意欲落ちし我れ健康の節くれ立ちし手に支えられ
病弱な妻持つ友あり家事炊事此こかも苦にならぬと言ひて
長い事家内に苦勞掛けながらこれも一つの恩返しです

ミヅナラ

札幌 浜島 泉

積雪に敷かれてをりしミヅナラの枯れ葉が飛びて ヨモギ芽に落つ
雪壁の泥を被きし塊が崩れ かそけき温き音聞く
名残り雪堅きを覆ひ積もりけり 舗道のものには既に消えつつ
遠望す峰に雪庇を 今朝聞きしラヂオの雪崩注意の予報
乗客が含みし飴の香料がバスに漂ひ 夕陽射し入る

夢のまた夢

釧路 兎玉 昌彦

父を越え羽搏くことを夢見しに気付けば同じ道を歩める
心から心へ伝えよ夢の種子いつかどこかで花開く日も
老いも死も生命進化の律のうちジタバタしないで運命待つべし
点滴も経管も我無用なり最後の糧は酒精にて足る
「亜麻色の髪の乙女」に青春の想いを込めた老爺のピアノ